

平塚の石仏めぐり

1. 平塚宿編



平塚5丁目路傍 不動明王

平塚宿の石仏

江戸時代に東海道の宿場であった平塚宿は、平塚新宿に対して本宿と通称され、明治 20 年に平塚駅が開設される以前は商業経済の中心地として栄えました。古くからの集落は東海道沿いと北西部の上平塚に形成され、石造物の大半がこれら集落の社寺や路傍に存在しています。このガイドマップでは、平塚宿の中心部であった平塚一〜五丁目付近の石造物を取り上げています。

平塚宿では、造立年代が古いにもかかわらず、彫りの状態が良い優美な姿の石仏に出会うことができます。これは平塚宿で近世に造立された石造物の大半が安山岩あんざんがんでつくられていることに関係しています。真鶴から産出される安山岩は、丹沢山地の凝灰岩に比べ石質が堅牢で劣化しにくいため、これを用いた石造物は今日もおおむね良好な状態を保っています。市域全体では江戸中期から後期にかけて凝灰岩製の石造物が優勢になりますが、平塚宿では江戸時代を通じて主に安山岩が用いられました。これは沿岸部に位置する平塚宿が、真鶴からの石材運搬の便に恵まれていたことを物語ります。

このエリアの石造物を種別でみると、庚申塔が 8 基と多く、とくに宝善院に 4 基あって、造立年代による青面金剛や三猿の移り変わりを見比べることができます。題目塔も 7 基と多く、要法寺の享保 4 年（1719）塔は日蓮上人の髭題目が彫られた市域で最古の石塔です。

石仏豆知識 1. 庚申塔

庚申信仰とは六十日に一度巡ってくる庚申の日に、その夜を眠らずに過ごすことで健康長寿を願う信仰で、守庚申とか庚申待ちといいます。

その源流は中国の道教にあり、人の身体の中にある三尸虫さんしちゅうが庚申の日に昇天して天帝に人の罪悪を告げ、命を縮めるといわれます。そのため、この日は三尸虫が身体から抜け出さないよう一晩中眠らずにいる信仰行事です。わが国には平安時代に伝えられましたが、室町時代に作られた『庚申縁起』に庚申の礼拝本尊として青面金剛しょうめんこんごうが考えられ、これが仏教的な庚申信仰に変容していきました。

青面金剛は伝戸（結核）の予防治療を祈るものですが、これに三尸虫の駆除をも祈願するようになりました。『陀羅尼集経』によれば青面金剛は四臂、三眼、二鬼上に立ち、二童子と四夜叉を伴う忿怒像として説かれています。庚申講の行事は以前からあった月待や念仏講の組織、宗教的な儀礼の順序や方法、供養のための造塔などを做って行われるようになりました。

庚申塔は室町時代以降、特に江戸時代になってから庚申信仰の盛行で実に多種多様な種類が作られ、像容もバラエティに富んでいます。庚申塔は沖縄を除く全国にあり、石造物のなかでも最も多く深く普及しました。

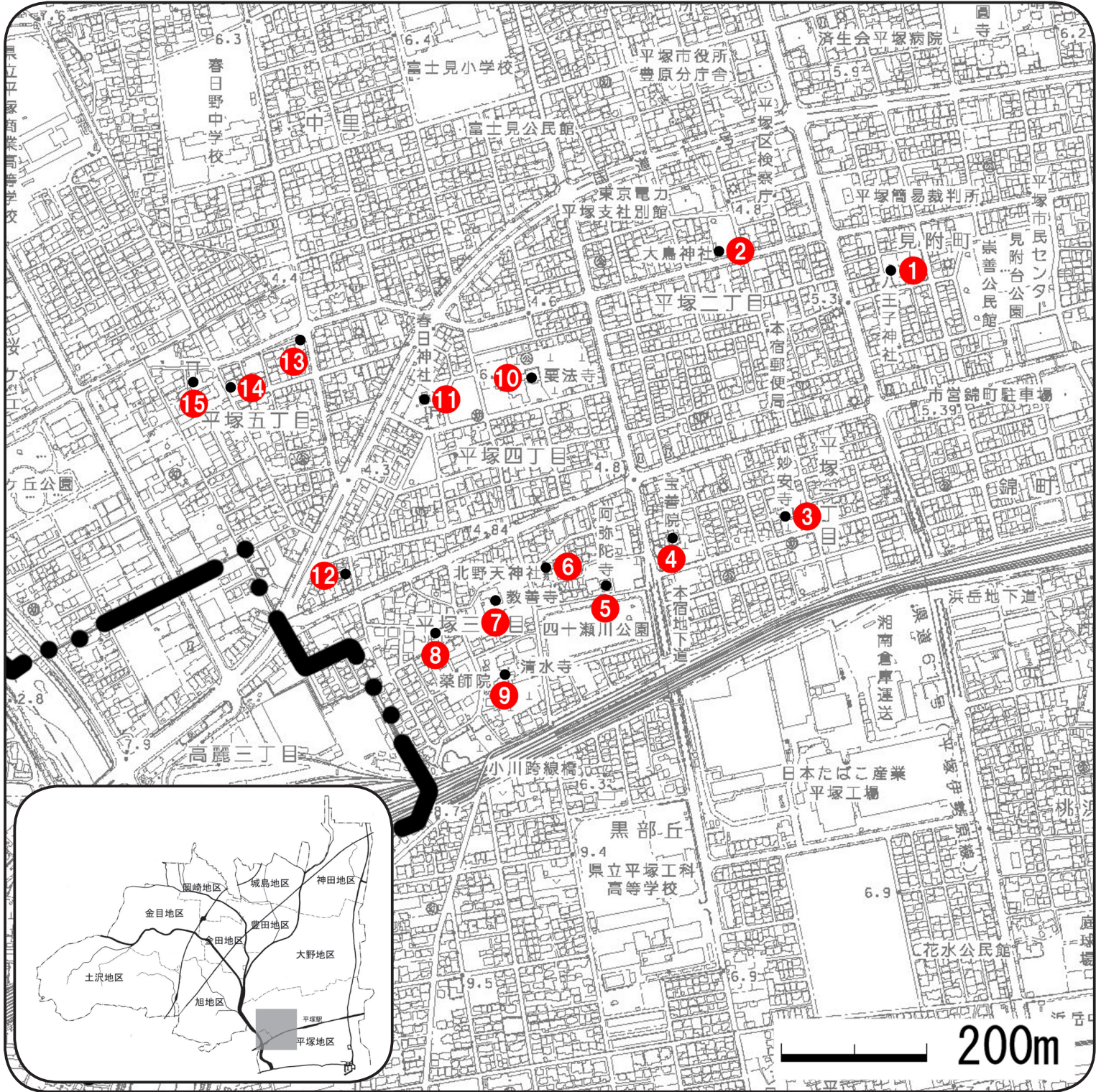
市内の庚申塔は 179 基あり、大島・正福寺の青面金剛二猿庚申塔は、明暦 2 年（1656）の銘があり、全国的にも注目される出現期の青面金剛庚申塔です。



晴雲寺の青面金剛庚申塔（延宝 6 年）

旧平塚宿中心部の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	八王子神社	見附町 40-5	道祖神・馬頭観音他
2	大鷲神社	平塚 2-20-5 東	道祖神・馬頭観音・震災供養塔他
3	妙安寺	平塚 1-12-15	題目塔・浄行菩薩・動物供養塔他
4	宝善院	平塚 1-23-16	廻国塔・庚申塔・宝篋印塔他
5	阿弥陀寺	平塚 3-5-23	地藏・万霊塔・宝篋印塔他
6	北野天神社	平塚 3-16-18 東	筆塚・庚申塔・馬頭観音他
7	教善寺	平塚 3-13	日限地藏・史跡碑他
8	平塚 3 丁目路傍	平塚 3-19-28	大日如来
9	薬師院	平塚 3-14-18	廻国塔・大日如来他
10	要法寺	平塚 4-10-10	寺号塔・浄行菩薩・題目塔他
11	春日神社	平塚 4-18-1	狛犬・灯籠他



番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
12	王子稻荷社	平塚 4-33-21	手水石
13	平塚 5 丁目路傍	平塚 5-19-36	不動明王・庚申塔・道標
14	御霊社	平塚 5-16-4 南	石祠・記念碑
15	御領社	平塚 5-21-34 西	石祠・道祖神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成 26 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（1. 平塚宿編）

発行日：平成 29 年 10 月

改定日：令和 4 年 7 月

編 集：石仏を調べる会

発 行：平塚市博物館

住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41

電 話：0463-33-5111

宝善院の石仏 (地図番号④)

福生山能満寺宝善院といい、東寺真言宗に属し、本尊は不動明王で鎌倉時代に創建されました。

ぼた餅地藏 願いごとの最初と最後にぼた餅を奉納したことから、ぼた餅地藏と称されています。安産、子育て、水子供養の地藏として今でも多くの参拝者があります。

この地藏は台座正面に「奉納日本廻國六十六部供養」、左面に「相口大住郡 平塚宿 岡本勝右エ門事 實圓」、右面に「文化七庚午天 神無月吉日」(1810)とあり、岡本氏が日本全国六十六箇所の霊場を巡礼し、一部ずつ法華経を奉納した廻国記念として建てられたことを示しています。

庚申塔 元禄 10 年 (1697)・宝暦 8 年 (1758)・弘化 3 年 (1846)・年代不詳の 4 基の青面金剛像があります。それぞれ彫がよく、像の姿形や持ち物の違い、三猿や邪鬼、蛇の有無などを比べてみるのもおもしろいです。



ぼた餅地藏
(文化 7 年)



青面金剛庚申塔
(左より、年代不詳、宝暦 8 年、元禄 10 年)

阿弥陀寺の石仏 (地図番号⑤)

浄土宗の寺院です。この地藏座像は三界万霊供養のため建立されたもので、当寺十一世と開山上人の名が刻まれ、本堂前に安置されています。

墓地中央部には開基の供養塔(宝篋印塔)と文政 9 年 (1826) 造立の廿一世の無縫塔があります。無縫塔正面には徳本名号が彫られています。文政 7～9 年造立の徳本名号塔が市内に 5 基もあるのは、上人の七回忌に当たるためと思われます。



万霊塔 (天明 4 年)

教善寺の日限地藏 (地図番号⑦)

市内で唯一の時宗寺院です。門前に一遍上人がここに留まれたことを記す「開祖一遍上人留錫霊跡」と彫られた碑があります。

寺の入口には地藏堂があり、日を限って祈願すると願いが成就する「日限地藏」として信仰を集めており、戦前までは、9 月の彼岸明けに地藏堂の前に筵を敷き、百万遍念仏が開かれていました。



日限地藏 (安政 6 年)

薬師院の石仏 (地図番号⑧)

薬師院は清水山医王寺といい、真言宗の寺院です。境内には、平塚市見附町から遷座された相模西国第十四番霊場である松風庵観音堂が祀られています。

観音堂前の石仏

ブロンズの聖観音像を挟んで、7 基の石造物が並んでおり、戦災後、観音堂の遷座と共に移されたものです。

合掌をした地藏と、宝珠と錫杖を持つ地藏が 3 基、三猿の庚申塔と聖観音が各 1 基、廻国塔が 2 基あります。廻国塔の一方は「光明真言」の中に「大日報身真言」を配し、他方は丸彫りの地藏座像を配しています。



左より、地藏 (昭和 38 年、貞享 3 年)、廻国塔 (明治 24 年、延享 5 年)、聖観音 (享保 19 年)、庚申塔 (元禄 3 年)、地藏 (年代不詳)

本堂左側の大日如来と地藏

赤い帽子を被り、前掛けをした胎蔵界大日如来坐像と地藏半跏像の 2 体が安置されています。日頃からお花等の奉納物が絶えません。大日如来像には、智の世界を象徴する金剛界と、悟りの世界を表す胎蔵界の二通りあり、胎蔵界は法界定印という印相を結びます。いずれも宝冠を被り、装身具をつけ美しい姿をしています。

一方、半跏像の地藏菩薩は、蓮華台座の一部を切り取り、足の指先まで見える珍しい半跏像で、角柱台座正面に延命地藏経の一部である「毎日晨朝入諸定 入於地獄代受苦」の銘文が刻まれております。

本堂右奥の無縁塔の大日如来

無縁塔の頂上に金剛界大日如来坐像が鎮座しています。智拳印を結び、お顔も美しく、凛としたお姿です。銘文に「爲一宜悟心信□」「菩提」とあり、故人の冥福を祈って建てられたものと思われます。



左より、胎蔵界大日如来 (延宝 8 年) 地藏半跏像 (享和元年)



金剛界大日如来
(正徳 3 年)

平塚三丁目路傍の石仏 (地図番号⑨)

悟りの世界を表す法界定印を結ぶ胎蔵界大日如来坐像で、大正 7 年 (1918) の造立です。当時、近くにお住まいの S 家、U 家で次々と子供の不幸が続きました。台座銘文から、この石像は両家が発起人になり近隣の方に寄付を募って造立されていることが解ります。数年前まで毎年 3 回、坐像前で「南無大日如来さん」と唱えられていました。



胎蔵界大日如来
(大正 7 年)

要法寺の石仏 (地図番号⑩)

日蓮宗の守り神 七面大明神

要法寺は、鎌倉時代、地頭の夢枕に立った七面天女のお告げ通り日蓮聖人がこの地に一泊された縁で建立されました。

七面天女は日蓮宗の守り神で七面大明神と呼ばれ、本堂に祀られています。その寺号塔として寛保元年 (1741)、七面大明神塔が多数の信者により建てられました。笠正面に天女像が彫られ、左面には寄進者の人々について「施入面〃 (々) 現當二世安樂」とあります。



寺号塔 (寛保元年)

心身の病を和らげる浄行菩薩

浄行菩薩は法華経に現れ、お釈迦様が説かれた法華経を伝える菩薩のおひとりで、心を淨くし迷いを無くすことに勤める仏様です。

境内の浄行菩薩のお体を水やたわしで洗い清めると、自分の心身の病が和らげられると言われます。菩薩のお体はつるつるに光り、いつも濡れています。



浄行菩薩 (年代不詳)

日蓮聖人独特の髭題目

享保 4 年 (1719) と享和 2 年 (1802) 造立の塔に「南無妙法蓮華経」と刻まれています。

日蓮宗のお勤めでは開祖日蓮聖人の教えにより、お釈迦様の説かれた妙法蓮華経 (法華経) に帰依し「南無妙法蓮華経」と題目を唱えます。

塔の書体は日蓮聖人独特の髭題目と呼ばれ、多くの人々に功德が行き渡るように筆先が髭のように先々まで力強く伸びています。



題目塔 (享保 4 年)

春日神社の石仏 (地図番号⑪)

春日神社は、古くは黒部宮と称したが、海に近く度々高波にさらわれた為、現在の地に遷座し、平塚宿の総鎮守として栄えました。

狛犬 市内に狛犬は 58 対現存しますが、市内で唯一江戸期 (天保 14 年 (1843)) の紀年銘を刻むものです。小振りですが精巧な彫りで、阿像 (右側) は子獅子に乳を吸わせ、吽像 (左側) は子獅子を足で抱きかかえる姿に彫られ、大変珍しい狛犬です。台石の正面には「米田屋」、右面には「江戸高砂町河岸 石工 井筒屋千太郎」と彫られています。

灯籠 鳥居の左手、手水石裏の見えにくい場所に建つ、常夜灯と刻された四角灯籠は、全高が 330cm と大型のもので、「石工馬入嘉吉」の銘があります。



狛犬 (天保 14 年)



灯籠 (文久 2 年)

平塚五丁目路傍の石仏 (地図番号⑫)

ここは中原方面と上平塚方面へ向かう道の分岐点に当たっていました。石仏は 5 基で、そのうち道標を兼ねたものが 3 基あります。現状とは行き先があわない道標があるので、一部は他所から移されたものと考えられます。

不動明王は 2 基あり、寛政 5 年 (1793) の銘を刻む火炎光背の坐像は市内で最も古い石造不動明王です。もうひとつは立像で、造立年は不詳ですが「従是右大山道 従是日向道」と刻まれています。2 基の不動はいずれも「大山道」と刻まれており、大山詣りが盛んであったことを示しています。

庚申塔が元禄 6 年 (1693) 造立の板碑型三猿塔と造立年不詳の文字塔の 2 基あります。文字塔には「右あつき 左いせはら」の道標銘が刻まれ、春日神社にある天保 14 年 (1843) 銘の狛犬奉納者と同じ米田屋恒右衛門が造立しています。



左より、供養塔 (平成 14 年)、庚申塔 (年代不詳) 不動明王 2 基 (寛政 5 年、年代不詳)、庚申塔 (元禄 6 年)